

# 『年齢・発達にそった絵の具あそび』

— 子どもがより豊かに表現できるための絵画あそび —

## 【中央南部Aグループ】

旭保育園・お告げの聖母保育園・神の島愛児園・木鉢双葉保育園  
小百合保育園・聖徳保育園・しらゆり保育園・親愛園・星座保育園  
福田こども園・ほほえみ保育園・友愛八幡保育園

【テーマ】 『子どもたちの成長発達にそった絵の具あそび』

助言講師 あとりえ絵心児主宰 濱崎 彰 先生

## 【 研究動機・目的 】

私たちの研究グループでは、絵画表現あそびの際に「困っていること・疑問に思っていること」についての意見交換をおこなった。絵をなかなか描けない子。下書きまでできているのにいざ絵の具を使うと、自分の思うような色を表現できずに投げ出してしまう子などにどう関わればよいのか。表現あそびとは、本来、自由で楽しいあそびのはずなのに、表現することを喜べない子がいるのはなぜか。私たちの関わり、環境構成の配慮、年齢に適した用具の与え方などによって、子どもたちの様子や意欲にどのような変化を見出すことができるのかなどの意見があがった。そこで、私たちのグループは「子どもたちの成長、発達に沿った絵の具あそび」というテーマのもと、講師に「あとりえ絵心児」の濱崎彰先生を迎え、研究を進めていくことにした。

## 【 方法 】

・先生から絵の具あそびのさまざまな方法を学び、年齢ごとの実践を各園でおこない  
その実践結果を持ち寄り、研修をおこなった。また、先生の“ゆび絵あそび”の保育を見学し、  
導入や、環境構成の振り返りをおこない次の実践につなげた。

## 〈 未満児の実践から 〉

・絵の具あそびにつながる“素地作り”の時期だと考え、年齢に合わせた素材、用具を使ってなぐり描きや、ぬたくりあそびを各園で実践した。

### 【 0・1歳児のなぐり描き 】

0・1歳のなぐり描きは、初めは紙に思いがけない点や線が現れることを喜び、やがてその点や線が意味づけされ、自分の思いを描くあそびへと広がっていくようだ。その時保育者は、子どもと応答し、その声を受止めることが大切だと改めて確認できた。子どもは、受止められたことを喜び、それが絵を描く意欲につながっていくのだろう。私たちは、子どもとの応答を通し、さまざまな素材や楽しい環境のもと、子どもと一緒になぐり描きをする中で、言葉の獲得や情緒の安定が図られることに気付くことができた。

#### (用紙について)

なぐり描きを思いっきりするためには、十分な広さが必要であると思った。大きい紙を用いると思いきりのびと手を動かし描くことができていた。

新聞紙、わら半紙、模造紙、色画用紙、カレンダーの裏紙など色々な素材を準備することで、子どもの意欲が高まった。

#### (用具について)

マーカーは、力を入れなくても手を動かすだけで、白い紙に子どもにとって思いがけない点や線が表現できる。子どもは、それが楽しくて夢中になれる。筆圧が弱い未満児の初めてのなぐり書きには適している。細いペンや質の硬いものは、握りにくく描きづらいことから、子どもにとって握りやすく柔らかいものを準備することが大切だと思った。

### 【 2歳児のぬたくりあそび 】

汚れるのが苦手、絵の具の感触になじめないなどの子どもたちは、まずタンポ、筆、スポンジなどを使った絵の具あそびや、ビー玉を使っての転がし絵、などのあそびから始めた。このあそびを十分に重ねると、絵の具の感触や汚れることにも慣れ、絵の具あそびがダイナミックになった。この経験より子どもたちは、手でのぬたくりあそびが楽しめるようになり、その後さらに、ボディペインティングへとあそびの幅が広がっていった。ぬたくりあそびの中で色にも興味を示しはじめ、偶然に重なり合った色を発見し、驚き、絵の具あそびへの更なる意欲へとつながった。ぬたくりあそびでは、和紙・ダンボール・画用紙・カレンダーの裏紙など色々な素材を使うことで、同じぬたくりでも素材によって、異なる感触（でこぼこ・ふわふわ・ツルツルなど）の違いを楽しむことができた。絵の具も水で溶くだけでなく小麦粉や、水糊などを混ぜることで、感触の違いが楽しめた。

### 【 考 察 】

未満児のなぐり描きや絵の具あそびには、子どもが思うまま自由に表現し、それを認めてもらうことの喜びが詰まっています。私たちは、子どものあそびを広げるように道具や、素材をたくさん知り、環境を作ることがとても大切だと再確認できました。本能のままに描く0歳児、意味づけできるようになる1歳児、そこから目的やイメージを持って、保育者と応答を楽しみながら描く2歳児。発達や個々によって様々ですが、一人ひとり表現することの楽しさを十分に味あわせることや、楽しい経験の積み重ねが五感を刺激し、心を開放し、そこから、以上児クラスでの様々な絵の具あそびへと発展していくための土台となることがわかりました。

## 〈 3歳以上児の実践から 〉

- ・「年齢、発達に沿った素材と内容」について講師の先生にお話を伺い、その資料から各年齢で大切にしたいことをピックアップし、各園で実践した。

### 【 3歳児 】

- ・3歳児では「絵の具の面白さを味わう」ということをキーワードに「段ボールのたらし絵」の実践に取り組んだ。ダンボールの片面をはがし、凹凸面を出したものに筆やスポイトを用いて溝に絵の具をたらししていく。3歳児でも、簡単に、まっすぐにいろいろな色を流すことができるので、夢中で取り組んでいた。この実践を通して子どもたちは、道具（筆、スポイト）を使うことに興味を持ち、楽しんだり、水を足すことでうまく流れるということにあそびの中で気付いたりしていた。また、紙に色がつく面白さ、色が混ざる様子を楽しんでいた。保育者は、子どもの気付きや感動共感することで、より、絵の具の面白さを味わうことができることがわかった。

### 【 4歳児 】

- ・4歳児では、「道具（筆）の使い方を知る」ということをキーワードに、講師の濱崎先生からの「色を塗る場合に、筆を立てて塗ることを身につけさせよう」という助言をもとに実践にとりくんだ。目線を高くして描こうとすると、肩よりも肘が前に出て腕が動かしやすくなることで、より筆が動かしやすくなり、細かいところを塗るときにも筆を立てて描くとはみ出ずに描くことができるようになった。持ち方も自然と正しい持ち方になっている子が多かった。また、各園で工夫し、様々な素材（画用紙、段ボールハウス、ビニールなど）を用意した。画用紙は準備がしやすく、狭い空間でも実践することができた。段ボールハウスでは、子どもたち同士で関わったりままごとに発展させたりしていた。透ける素材のビニールは、吊り下げて友だちと向かい合って同じ絵を描いたり、友だちの顔を見ながら描いたりして楽しんでいた。この活動を通して、友だちの様子に興味を持ったり、互いに共感しあったりする姿が見られた。広く、汚れてもいい環境を整えておくことで、子どもたちは大胆によりダイナミックに集中してあそぶことができていた。

### 【 5歳児 】

- ・5歳児では、「いろいろな表現の仕方を知る」ということをキーワードに「混色あそび」の実践に取り組んだ。これまでに子どもたちは、絵の具あそびを通して色が混ざることや、水の量で色や描き味が変わることを経験した。今回は、「秋の色をつくろう」をテーマに、自分で色を考えて混色し、意図した色を作ろうとされていた。これまでの経験を活かし、水の加減をしたり、微妙な色味（赤みがかった紫と青みがかった紫など）を表現したりして楽しんでいた。また、友だち同士で共感しあったり情報交換をしたりすることで、よりテーマに近づくよう工夫している様子がみられた。保育者が、子どもたちのイメージが広がるようを用意したり、題材に実際に触れる機会を作ったりすることで、より表現が広がっていくことがわかった。

### 【 考 察 】

今回、私たちは様々な表現方法を学んだ。そして、子どもたちが「簡単に取り組むことができる」「みんなで楽しめる」「ダイナミックにあそべる」「評価のない」など、自由な雰囲気での活動を年齢発達に沿って実践した。この実践を通し子どもたちは、様々な技法を経験したり、新しい表現を発見したり、子どもにとって新しく魅力的な題材に触れることで、より豊かに絵の具あそびを楽しむことができていた。また、普段、絵画遊びに消極的な子や興味が長続きしない子も、苦手意識を持たず、安心して取り組んでいる様子が見られたことから、子どもたちは“自由な雰囲気での活動の中で主体的に活動できる”ということがわかった。

## 【 考 察 】

今回の研究を通して、子どもの成長発達に応じた環境設定やさまざまな絵の具あそびを、自分たちがよく理解できていないまま、子どもたちに関わっていたことに気付くことができた。未満児では、自由に自分の思いを描く喜びや、絵の具を使っての楽しいあそびを経験することが、以上児での絵の具あそびの素地となり、以上児では、いろいろな表現方法を体験する中で、自分の思いを自由に表現することを喜んだり、経験したことや感動したことを、“その子らしく楽しんで表現きる”ことにつながっていくことが確認できた。いろいろな絵画表現遊びを重ねる中で、それまでの子どもたちの様子とは違った一面が見えてきたり、子どもたちの発する言葉や意欲の変化に気付くことができたことから、私たち保育者は、保育者主導のもとでの活動になってしまったり、つつい自分たちの都合や状況で環境を狭めてしまったりすることなく、子どもたちにたくさんの選択肢を整え、本来の子どもの自由な表現やあそびを制限せず、子どもとの応答を丁寧にしながら、“子どもたちが自分で選び、楽しんで自分を表現すること”ができるように、子どもたちと関わっていくことの大切さを学んだ。

## 【 課 題 】

“自由に楽しんで表現する”ために、環境づくりの工夫、年齢発達にそった基本の体づくり、あそびなどを保育の中にとり入れ、今回学んださまざまな技法を生かして、「テーマのある絵」などにもとりこんでみたい。

### 各年齢別の実践の様子



0・1歳 なぐり描き



3歳児 ダンボールのたらし絵



1歳 絵の具あそび



4歳児 筆の使い方を知る（段ボールハウス）



2歳 むたくり



5歳児 混色あそび（秋の色を作ろう）